

## 就 任 の ご 挨拶



平素は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

このたび日本商品先物取引協会（日商協）の会長に就任いたしました稲垣隆一でございます。ここに謹んでご挨拶を申し上げます。

皆様ご存知のとおり、日商協は、商品先物取引法に基づき農林水産大臣及び経済産業大臣から設立の認可を受けた法人であり、商品デリバティブ取引を公正かつ円滑ならしめ、かつ委託者等の保護を図ることを目的としており、商品デリバティブ業界において重要な役割を担っています。私は、会長としての責任を引き受け、業界の健全な発展に尽力することを心からの使命と考えております。

私は2003年（平成15年）にあっせん・調停委員として商品先物取引業界とご縁をいただき、2006年（平成18年）から現在まで日商協の理事を務めてまいりました。

私があっせん・調停委員を務めていた当時は紛争仲介が年間250件もありましたが、近年では年に数件となっており、隔世の感があります。これは自主規制機関として日商協が重要な役割を果たしてきたこともあるでしょうが、それ以上に会員の皆様の努力によりコンプライアンス水準が高まった証であると考えています。このような変化を踏まえつつ、商品デリバティブ取引が経済活動の重要なインフラとして機能し続けるために、日商協としてできることに知恵を絞ってまいりたいと考えております。

協会の健全な運営と業界の発展は、皆様のご支援とご協力によって成り立つと考えておりますので、会員とのコミュニケーションを大切にし、会員との協力関係を築いてまいります。

また、(株)東京商品取引所の貴金属市場等が(株)大阪取引所へ移管された影響が大きいと推察しますが、日商協の会員構成において、店頭商品デリバティブ取引を扱う事業者の比重が相対的に大きくなってきております。このような変化に対し、何かすべきことはあるのか検討してまいりたいと考えております。

ご案内のとおり、商品移管後の国内商品市場取引は厳しい状況が続いております。日商協もだいぶ苦しい時期を過ごしてまいりましたが、山崎前会長の指揮のもとで日商協改革を行っていただき、日商協自身が現時点でできる限りにおいて態勢の再構築はできたと思っています。私はこれを引き継ぎ、日商協の各事業を着実に押し進め、引き続き協会の適切なガバナンスと透明性を確保することにも努める所存です。

最後になりますが、会長としての在任中、至らぬこともあろうかと存じますが、会員をはじめとする業界関係者、理事、監事、職員の皆様、そして社会からのご期待に応えられるよう力を尽くしてまいり所存でございますので、山崎前会長と同様にご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。就任の挨拶とさせていただきます。

令和5年6月14日

日本商品先物取引協会 会長 稲 垣 隆 一